

令和6年度 園の自己評価			未来ほしの子保育園
		評価 (1～5)	今年度の状況
教育・保育	園児一人一人が安心感と信頼感をもって活動に取り組む体験を十分に積み重ねられるようにする	4	特に小さいクラスでは安心して過ごせる様受け止めながら保育を行っていた。大きいクラスでは寄り添うだけでなく、信頼感も大切にしながら保育を行っていた。
	主体的な活動を促す環境の工夫をする	3	職員の体制等も関わってくるため、クラス単位ではなく園全体で考えていく事が必要となっている。まだまだ改善が必要である。
	自発的な活動としての遊びを通して指導を行う	3	子ども達が自発的に活動をしている姿も見られているが、遊びを通してどの様な経験や学びを得ているのか、もう少し深堀する事が必要である。
	園児一人一人の特性や発達に応じた指導を行う	4	子ども達一人ひとりに寄り添いながら、保育を行っている。
	活動によって保育所保育指針に示されている3つの資質・能力が育まれている	3	様々な活動の中で育まれて来ているが、まだまだ保育士の意識が高くはない。
	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を意識し、教育・保育にあたっている	3	育ってほしい姿には近づいているが、日々の保育の中での意識は低かった様に思う。
	小学校との連絡会に参加し、小学校教育と円滑な接続ができるように情報交換をしている	5	今年度も保幼小の連絡会に参加したり、電話で対応することで情報交換が出来た。
健康支援	保健計画に沿った保健活動を行う	4	ほぼ行うことが出来た。歯みがき指導に関しては、園児の安全状況を考慮し、歯みがきの開始を延期した。(4歳児クラスからは毎日行っている)
	園児の機嫌や食欲、顔色を観察し、平常とは異なった状態かどうか注意を払っている	4	連絡帳や担任からの情報と、看護師による視診にて把握し確認をしている。
	体調不良や怪我が発生した場合、保護者に園児の状況を連絡し、適切な対応をとっている	5	担任から看護師や園長に報告・相談し、状況に合わせた対応を行っている。職場が遠い等お迎え迄時間が掛かってしまう方も少なくないが、看護師が寄り添い子どもが安心出来るような環境づくりを行っている。
	園児の成育歴や罹患歴、予防接種状況などの情報を把握している	4	保育士間の情報共有や年度が変わる際、保健調査票を記入して頂いたり、連絡帳や登園届け等でも把握している。
	保健だよりにて情報発信をしている	5	月1回の保健だよりだけでなく、感染症が流行しそうな時にも臨時号を配信している。
	感染症に対して感染症情報を保護者に伝え、感染症予防に努めている	5	感染症に罹患した園児がいた場合、張り紙やコドモン等で保護者へも周知している。
	感染症の疑いのある園児に対し、他児と接触しないようにするなど適切な処置、対応をしている	4	可能な限り行っている。(事務所の保健スペースで対応する場合が多い)
	睡眠チェックを年齢に合わせて必ず行い、SIDSの危険因子が無いようにしている	5	0・1歳児はコリン(午睡チェックセンサー)と保育者が手と目で呼吸チェック、2歳以上も保育士がチェックを行っている。
食育	AEDの使い方も含めた心肺蘇生法について職員全員が理解できるようにしている	4	看護師が全体に実技指導(研修)を行っている。又あすかモデルの動画を観ることで学びにも繋げている。
	食育計画に沿って園児が食への興味や関心を高めることができるような活動や関わりをしている	5	毎月年齢に合わせた内容を考え、実際に食材に触れたり味わう事で、食に対する興味を持てるようにした。
	安全、安心な給食やおやつを提供をしている	5	十分な加熱、消毒、清掃を毎日欠かさず行い、安心、安全な給食やおやつを提供した。
	旬の食材を使用したり、行事食を取り入れたりするなど季節を感じられるような献立作成をしている	5	毎月献立を考える際には旬の食材を取り入れる事で季節感を持たせ、行事食では少し手の込んだメニューやケーキでお祝いの気持ちを込めている。
	栄養だよりにて情報発信をしている	5	毎月の給食だよりでは気候の違いによって気を付ける事や、給食で人気のメニュー等のレシピをのせて情報発信をしている。
	食物アレルギー対応を適切にしている	5	食物アレルギー児の対応として、クラス全体を完全除去食で提供した。又、食器やトレイを色分けし、ラップの上からコメントを記入し、担任にも口頭で説明をし、その後クラス間でも情報を共有している。
	離乳食は家庭と情報交換をし、一人ひとりに合わせた献立を作成し、提供している	5	離乳食は一人ひとり食材チェック表を使用することで、家庭とも情報交換をしている。過程で食べた事がある食材を使い、出汁と素材の味を活かした離乳食を提供している。

環境・衛生管理	室内の換気を適宜行い、室温、湿度や明るさ、音の大きさなど園児が心地よく過ごせる環境を整えている	4	常に意識をしながら整えられるようにしている。
	嘔吐物、排泄物の処理に当たっては感染防止のための処理を徹底している	5	年度初めに園内研修を行い、全体で徹底出来るようにしている。
	衛生的な空間で園児が生活できるよう、丁寧な清掃を行っている	4	出来る限りの事は行っている。(床だけでなく玩具や壁等も消毒を行っている)
	調乳や園児の食事介助の際には、手洗いや備品の消毒をするなど衛生面の配慮をしている	5	手洗いだけでなく、保育とはエプロンを変えたり三角巾をしたり、消毒も使用している。
災害への備え	保育所保育指針、災害への備えに基づき、災害等の発生に備えるとともに、防火設備、避難経路等の安全点検を定期的に行っている	3	非常食等は備えている。しかし水害については、以前も工事等を行っているにもかかわらず、年々酷くなるゲリラ豪雨により対応が追いつかなくなっている為、引き続き対策を考えているところである。
	保育所保育指針、健康及び安全に基づき、緊急時の対応の具体的内容、手順、職員役割分担について確認をしている	3	具体的な内容や対応は決めているが、各々の役割においては、再確認が必要である。
	毎月1回、避難訓練及び消火器訓練を行い、反省をして改善点について検討している	4	毎月自園での訓練の他、年2回消防署からも指導に来ていただき指導をして頂いている。自園での訓練では、抜き打ち訓練も行う事で出てきた問題点を相談し、改善している。
	災害発生時の保護者への連絡、子どもの引き渡しを円滑に行えるよう体制や手順を決め、引き渡し訓練で確認をしている	5	事前に職員間で確認することで、保護者の方々にもご協力を頂きながら行うことが出来ている。
	防災備蓄を用意し、保存期間の確認、必要に応じた入れ替えを行っている	4	担当職員を中心に、確認を行っている。保存食に関してははローリンググストックを行っている。
	園児の人数確認を定期的に行い、所在把握をしている	5	登園後だけでなく、保育中にも人数確認を行うと共に、状況確認も行っている。
事故防止	遊具や玩具の安全点検を定期的に行っている	3	確認はしているが、まだ改善途中の箇所等もある。
	園外での活動に際して、事前に危険箇所を把握し、安全に活動できるようにしている	4	職員間での情報共有は出来ている。マップが古くなってきたので更新予定である。
	日常的な事故予防として、ヒヤリハットを収集、分析し、事故予防対策に活用している	3	月1回の会議や朝礼時にヒヤリハットの確認を行っているが、まだまだ改善が必要である。
	不審者の対応など危機管理について職員で周知している	3	周知はしているが、訓練を通して課題が沢山出てきた為、改善していく。
	睡眠、プール活動、水遊び、食事等の重大事故が発生しやすい場面について、マニュアルに基づきその場面に応じた適切な対応を行って	4	マニュアルを基に対応を行っている。又、疑問点は皆で話し合いを行う。
子育ての支援	保護者が積極的に半日保育体験に参加していただけるよう文書や掲示等で促している	4	コドモン等でお知らせをしたり、担任から声を掛ける事で参加率が上がっているが全員ではない。
	保護者からの相談に対してはプライバシーの保護や守秘義務を守り、親身に耳を傾ける態度で対応する	4	守秘義務等をしっかりと守り、随時、保護者対応を行っている。
	状況に応じて内部の体制をとったり、外部機関との連携をとり、適切な家庭支援を行う	5	保育士間だけでなく、外部機関とも連携を取りながら対応を行っている。
	地域における子育て家庭の保護者等に対する支援を適切に実施している(育児相談・園庭開放・子育て情報誌)	1	地域における子育て支援は出来ていない為、今後どうするかを考えていく。
職員の資質向上	内部研修を計画的に行い、職員が共通認識の下で教育・保育にあたることができるようにする	3	園内研修ではテーマを設け研修を行ったが、皆が意識を高く持てる様展開していく事が課題である。又、法人内での研修も行う事で、共通認識が出来るようにしていった。
	キャリアアップを含む様々な内容の外部研修に参加できるよう職員体制を整え、資質向上に努める	5	正規職員だけでなく、非正規職員も参加出来る様にしていた。